

ご 挨拶

株式会社 損保ジャパン総合研究所
取締役社長 平野 浩志

損害保険ジャパンの発足と損保ジャパン総合研究所

本年7月1日安田総合研究所の親会社であった安田火災海上保険株式会社は日産火災海上保険株式会社と合併し、新たな決意のもと株式会社損害保険ジャパン（通称「損保ジャパン」）がスタートしました。今般損保ジャパンの発足にあわせて当研究所の名称を損保ジャパン総合研究所に変更いたしました。総合研究所の果たす役割はますます重要になってきております。新しい保険事業の今後を展望して、私は研究所の社長にも就任させていただくことにいたしました。

「安田総研クォーターリー」から「損保ジャパン総研クォーターリー」へ

当研究所は、旧安田火災海上保険株式会社の創立100周年事業の一環として1987年6月に設立されて以来、損害保険会社のシンクタンクとして、リスク、リスク・マネジメント、リスク分担の制度、今後の社会・経済を変化させる要因という観点を中心に研究を続けてまいりました。設立当初の研究テーマは保険・補償に軸足をおきマクロ経済および製造物責任等でありましたが、その後、社会保障、環境問題、情報化などに研究分野はひろがりました。研究成果は「安田総研クォーターリー」において公表し、皆様方からの貴重なご意見・ご教示をいただくことができました。このような実績を挙げることができたのは、ひとえにご指導いただいた研究者の方々からの適切なアドバイス、および皆様方のご支援の賜物であり、ここに深くお礼申し上げる次第であります。「安田総研クォーターリー」は1992年に創刊し既に40号を数えております。今般の社名変更にあわせて誌名を「損保ジャパン総研クォーターリー」に変更し、今後とも新たな研究成果を公表してまいります。

今後を展望して

現在、社会・生活環境は未曾有の速さで今まで以上に大きく変化し、保険事業に求められる機能も大きく変化しています。少子高齢化の進展が財政問題と関連し、医療、年金、介護の論議を提起しております。こうした状況下、これまでの保険事業の中で蓄積された有為なものを活かし、保険機能に立脚し、技術・社会保障制度の動向、諸外国の状況も踏まえた実践的な研究成果を発信していくことが、皆様方のお役に立てる道だと考えております。

微力ではございますが、有益な研究を通じ、少しでも社会に貢献できるよう努力していく所存でございます。今後とも、皆様方の一層のお力添えをいただけますよう、心からお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。